

◎指示があるまで開かないこと。

(平成 29 年 2 月 12 日 16 時 00 分 ~ 17 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 31 問で解答時間は正味 1 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を 1 つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、	
101	a	b	c	d	e	
			↓			
101	a	b	c	d	e	●

101	101
a	a
b	b
c	→ c
d	d
e	●

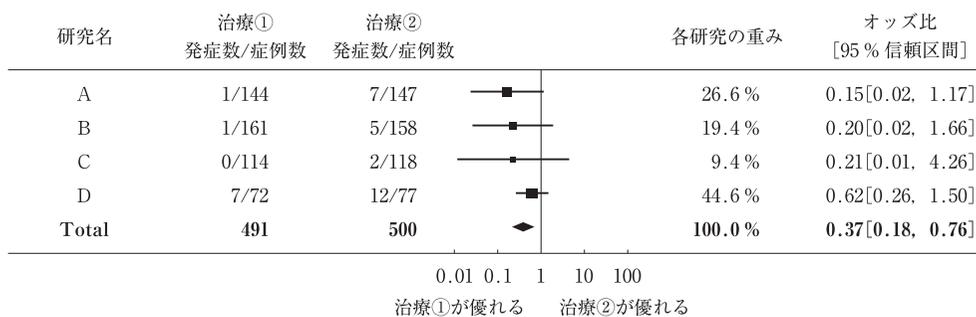
- 1 インフォームド・コンセントについて誤っているのはどれか。
 - a 患者の理解が同意の前提になる。
 - b 自己決定尊重の倫理原則に基づく。
 - c 医療行為に対する承諾書のことである。
 - d 患者の主体性を重んじて行う行為である。
 - e 臨床研究に参加してもらう場合に必要になる。

- 2 がんの終末期で在宅医療と介護を受けている患者の QOL について正しいのはどれか。
 - a がんの重症度が規定する。
 - b 人生の最終段階では低下する。
 - c 身体的機能の高さと一致する。
 - d 得られる支援によって変化する。
 - e 投与されるオピオイドの量に比例する。

- 3 リスボン宣言における患者の権利に含まれないのはどれか。
 - a 苦痛を緩和される権利
 - b 予防接種を受ける権利
 - c 他の医師の意見を求める権利
 - d 医学研究に参加することを拒絶する権利
 - e 自分に代わって情報を受ける人を選択する権利

- 4 疾患と症状の組合せで正しいのはどれか。
- a 白内障 ————— 霧 視
 - b 加齢黄斑変性 ————— 羞 明
 - c 開放隅角緑内障 ————— 飛蚊症
 - d 裂孔原性網膜剝離 ————— 近視化
 - e 網膜中心動脈閉塞症 ————— 小視症

5 ある研究結果の表を示す。



この研究方法はどれか。

- a 横断研究
- b コホート研究
- c 症例対照研究
- d 症例集積研究
- e メタ分析〈メタアナリシス〉

6 身体診察の所見と疾患の組合せで正しいのはどれか。

- a 筋性防御 ————— 急性膀胱炎
- b 陰嚢内腫瘤 ————— 停留精巣
- c 下腹部腫瘤 ————— 尿管結石
- d 側腹部腫瘤 ————— 鼠径ヘルニア
- e 肋骨脊柱角叩打痛 ————— 急性腎盂腎炎

7 上腕骨骨幹部骨折に合併することが多い運動麻痺はどれか。

- a 手指屈曲
- b 手指伸展
- c 手関節屈曲
- d 前腕回内
- e 肘関節伸展

8 体静脈圧が上昇して浮腫が生じるのはどれか。

- a 右心不全
- b 肝硬変
- c 甲状腺機能低下症
- d 敗血症
- e 微小変化型ネフローゼ症候群

9 動脈血ガス分析の採血について正しいのはどれか。

- a 動脈の走行は目視で確認する。
- b 穿刺針の太さは 18 G を選択する。
- c 穿刺針と皮膚との角度は 15~20 度を保つ。
- d 採血シリンジはペンを握るように保持する。
- e ピストンに十分な陰圧をかけながら採血する。

10 心拍数と脈拍数が一致しにくいのはどれか。

- a 心房細動
- b 心房頻拍
- c I 度房室ブロック
- d 完全房室ブロック
- e 4 : 1 伝導の心房粗動

11 大量吐血患者が救急車で搬入された。意識レベルは JCS I-2。体温 36.5℃。心拍数 120/分、整。血圧 80/50 mmHg。呼吸数 22/分。SpO₂ 100% (リザーバー付マスク 6 L/分 酸素投与下)。

初期対応で投与すべき輸液はどれか。

	Na ⁺ (mEq/L)	K ⁺ (mEq/L)	Cl ⁻ (mEq/L)	ブドウ糖 (%)
a	130	4	109	0
b	90	0	70	2.6
c	35	20	35	4.3
d	30	0	20	4.3
e	0	0	0	5

- 12 死亡診断書ではなく死体検案書が発行される状況はどれか。
- a 不明熱の患者が、入院5日目に原因不明のショック状態となり死亡した。
 - b 予定されていた肝切除術を受けた患者が、多臓器不全となり術後5日目に死亡した。
 - c 末期がん患者が、在宅医の診察75時間後に心停止となり同医師が訪問して死亡を確認した。
 - d 外食中に意識を失って救急車で搬入され、くも膜下出血と診断された患者が、20時間後に死亡した。
 - e うつ病で通院中の患者が、診察6時間後に溺水状態で同病院に救急車で搬入され主治医が死亡を確認した。
- 13 マラリアを診断するために用いる染色法はどれか。
- a Gram 染色
 - b Grocott 染色
 - c May-Giemsa 染色
 - d Papanicolaou 染色
 - e Ziehl-Neelsen 染色
- 14 地域連携クリニカルパスについて誤っているのはどれか。
- a 診療の標準化に役立つ。
 - b 施設間で診療計画を共有できる。
 - c 施設間の治療成績の比較に用いる。
 - d 脳卒中患者の在宅復帰に有用である。
 - e 患者が治療の経過を理解するのに役立つ。

15 乏尿をきたすのはどれか。

- a 糖尿病
- b SIADH
- c 急性腎不全
- d 低カリウム血症
- e 高カルシウム血症

16 「若い男性が乗用車を運転中に大型貨物自動車と衝突した」と消防に通報があり、消防指令は直ちに救命救急センターにドクターカーの出動を要請した。ドクターカーが現場に到着したときには閉じこめられていた運転者を救急隊が車外に救出したところであった。意識レベルはJCSⅡ-30。体温 36.0℃。心拍数 88/分、整。血圧 144/80 mmHg。呼吸数 24/分。SpO₂ 92% (room air)。頭部に挫創を認める。右下腿骨の骨折を認める。

現場でまず行うべき処置はどれか。

- a 気管切開
- b 酸素投与
- c 挫創部の縫合
- d 腹部超音波検査
- e 中心静脈路確保

17 8歳の男児。腹痛を主訴に母親に連れられて来院した。昨日午後の授業中におなかが痛くなり早退した。帰宅したら腹痛は治まり、いつも通り夕食を食べて入眠したが、今朝おなかが痛くて目が覚め、痛みが続くため受診した。

急性虫垂炎を鑑別するために患児に尋ねる有用な質問はどれか。

- a 「学校に行くのは楽しいかな」
- b 「おなかのどこが痛いかな」
- c 「うんちは1日に何回するの」
- d 「昨日の給食は何を食べたの」
- e 「おなかを痛がっているお友だちはいるかな」

18 76歳の男性。転倒して頭部を打撲したため長男に伴われて来院した。もともと妻と長男との3人暮らしであったが、6か月前に妻が他界した。それ以降は外出をしなくなり、夜遅くまでテレビを観て過ごすようになっている。炊事や洗濯はしているが生活用品の買い物は長男が会社からの帰りに行っている。3週間前にも食器棚の高い所にある皿を取ろうとして転倒した。妻が他界する前は、自治会の会長を務めていたという。意識は清明。右前頭部に擦過傷を認める。徒手筋力テストで腸腰筋は5、大腿四頭筋は5である。片足立ちは不安定である。その他の神経学的所見に異常を認めない。頭部CTに異常を認めない。

最も適切な対応はどれか。

- a 睡眠薬を処方する。
- b 家事動作を禁止する。
- c 車椅子の使用を勧める。
- d 地域との交流を勧める。
- e 有料老人ホームへの転居を勧める。

19 56歳の男性。健康診断で高血圧を指摘されて来院した。これまでの健康診断では異常を指摘されたことはなかった。喫煙は15本/日を35年間。初診時の血圧は162/102 mmHg。精密検査の結果、本態性高血圧症と診断された。担当医は患者に選択できる治療法とそれぞれの利益と不利益とについて説明した後、降圧薬による治療が望ましいと説明した。患者は担当医の説明を十分に理解したようであったが、「先生の言われたことは理解できましたし、薬による治療が必要であることについてもよく分かりました。しかし、現時点で薬を飲むことには抵抗があり、今すぐ決めることは難しいです」と述べた。医師は「そうですか、決めるのは難しいのですね」と患者の考えを受けとめた。

それに続く医師の言葉として最も適切なのはどれか。

- a 「それでは薬は使わないようにします」
- b 「飲みたくない理由を教えてください」
- c 「あなた自身で決めなくてはなりません」
- d 「従ってもらえないなら、今後診察はできません」
- e 「高血圧のリスクについて十分理解していないようです」

20 75歳の男性。呼吸困難と起坐呼吸とを主訴に来院した。3年前から高血圧症、弁膜症および脂質異常症で自宅近くの医療機関を定期受診していた。1週間前から咽頭痛および発熱の症状があり、その後、階段昇降時に息切れを自覚し、徐々に起坐呼吸の状態となった。意識は清明。体温 37.2℃。脈拍 100/分、整。血圧 138/86 mmHg。呼吸数 24/分。SpO₂ 88% (room air)。頸静脈の怒張と両下腿の浮腫とを認める。胸部の聴診でⅢ音とⅣ音とを聴取し、心尖部を最強点とするⅣ/Ⅵの全収縮期雑音を聴取する。呼吸音は両側の下胸部に coarse crackles を聴取する。四肢末梢に冷感を認めない。心電図は洞性頻脈を認めるが、有意な ST-T 変化を認めない。胸部エックス線写真(別冊No. 1)を別に示す。酸素投与を開始し、静脈路の確保と心電図モニターの装着とを行った。

硝酸薬とともに投与すべきなのはどれか。

- a 鎮静薬
- b 利尿薬
- c β 遮断薬
- d α 遮断薬
- e 経口強心薬

別 冊

No. 1

21 42歳の女性。繰り返す回転性めまいを主訴に来院した。昨日の朝、起床時に激しい回転性のめまいを自覚した。じっとしていると数十秒で止まったが、洗濯物を干すときと就寝時に再燃した。発作時に難聴や耳鳴りはなかったという。今朝も起床時に同様のめまいが出現したため来院した。眼振検査で頭位変換眼振を認める。純音聴力検査は正常である。他に神経症状を認めない。

最も考えられるのはどれか。

- a 小脳梗塞
- b Ménière 病
- c 前庭神経炎
- d 聴神経腫瘍
- e 良性発作性頭位眩暈症

22 28歳の女性。風疹ワクチン接種を希望して来院した。第1子妊娠中に風疹抗体価が陰性であることが判明した。第2子の挙児希望があり、現在は妊娠していない。内服薬や出血傾向をきたす基礎疾患はない。

風疹ワクチンの適切な投与経路はどれか。

- a 鼻腔内投与
- b 経口投与
- c 静脈注射
- d 皮下注射
- e 皮内注射

23 23歳の男性。睡眠障害と全身倦怠感を主訴に産業医を訪れた。3か月前に就職し、1か月前から易疲労感を自覚するようになり、夜間十分に眠っても日中に強い眠気を感じるようになった。2週間前から食欲が低下し、やる気が起きないことが続き、仕事上の小さなミスも増えておりストレスが多いと感じている。産業医に自分の状況を相談した。

相談を受けた産業医の対応として最も適切なのはどれか。

- a 特に何もしない。
- b 直ちに休職させる。
- c 医療機関の受診を勧める。
- d もう少し様子を見るよう勧める。
- e 他の同期入職者も頑張っているからと励ます。

24 78歳の男性。呼吸困難を主訴に夜間救急外来を受診した。呼吸困難のために病歴は十分に得ることができない。家族の話によると、5年前から自宅近くの診療所で在宅酸素療法が導入されており、1 L/分の酸素を吸入している。来院時は、酸素ボンベを持参している。意識は清明。体温36.8℃。脈拍96/分、整。血圧130/80 mmHg。呼吸数20/分。体格はやせ型。吸気時に肥大した胸鎖乳突筋が特に目立ち、口すぼめ呼吸をし、喘鳴が著明である。動脈血ガス分析(鼻カニューラ1 L/分 酸素投与下)：pH 7.35、PaCO₂ 55 Torr、PaO₂ 60 Torr、HCO₃⁻ 30 mEq/L。酸素療法による適切な初期対応はどれか。

- a リザーバー付マスク 10 L/分
- b リザーバー付マスク 5 L/分
- c 鼻カニューラ 5 L/分
- d 鼻カニューラ 1.5 L/分
- e 鼻カニューラ 0.5 L/分

25 43歳の女性。1か月前の健康診断で異常を指摘され来院した。健診の報告書を示す。

	基準値	あなたの値
白血球(/ μ L)	4,000~8,000	3,800

要精査。医療機関を受診してください。

患者への説明として誤っているのはどれか。

- a 「病気ではなくても4,000を下回ることがあります」
- b 「以前の検査結果との比較が重要です」
- c 「本日も同じ検査をしましょう」
- d 「白血球の種類を調べましょう」
- e 「骨髄の検査が必要です」

次の文を読み、26、27の問いに答えよ。

52歳の女性。耳鳴りを主訴に夫に伴われて来院した。

現病歴 : 2か月前から毎晩就寝時に心臓の鼓動が耳や頭の中でドクドクと響くように感じ、次第に寝付けなくなった。耳鼻咽喉科を受診したところ「耳鏡検査や聴力検査に異常はないので様子を見るように」と説明された。その後も改善がみられないため脳神経外科を受診したが「診察で神経学的所見に異常はなく脳血管障害の可能性は低いので再診は必要ない」と説明された。循環器内科も受診したが「心電図の異常もないので心臓の病気は心配しなくてもよい」と説明された。症状が改善しないため総合診療科を受診した。

既往歴 : 48歳から高血圧症で降圧薬を内服中。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父親が脳出血で死亡。

現症 : 意識は清明。身長156 cm、体重54 kg。体温36.8℃。脈拍84/分、整。血圧148/88 mmHg。呼吸数12/分。SpO₂ 98% (room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。対光反射は正常。口腔内と咽頭とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。頸動脈に雑音を聴取しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。

再び面接を行った。

医師 ①「あなたの症状についてご家族からもお話を伺えますか」

患者 「はい、後で待合室にいる主人から聞いていただければと思います」

医師 ②「あなたの症状についてご主人はどのように考えていると思いますか」

患者 「私の体調不良は気になっている様子です」

医師 ③「最初に耳鼻咽喉科を受診されたのですね」

患者 「はい、最初は耳のせいかと思っていました」

医師 ④「いろいろ診てもらった結果、耳鳴りの原因は何だと思えますか」

患者 「私は血圧が高く父も脳出血だったので、脳に異常がないか不安です」

医師 ⑤「しばらく様子を見てはどうかと思いますが、いかがですか」

患者 「やはり脳の異常が心配です」

26 現在の患者の解釈モデルを尋ねているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

27 この患者への対応として適切なのはどれか。

- a 今後の検査は他院で相談するように伝える。
- b ひとまず帰宅して家族とよく相談するように伝える。
- c いつでも連絡がとれるよう医師個人の電話番号を伝える。
- d 不安が強いときは自ら精神科医に相談するように伝える。
- e 外来通院を継続しながら患者の意向を確認していくと伝える。

次の文を読み、28、29の問いに答えよ。

62歳の男性。右下肢の痛みを主訴に来院した。

現病歴 : 半年前から散歩の際に右下肢の疲れやすさを自覚していた。1か月前から15分程度の平地歩行で右下肢の痛みが出現するようになった。しばらく立ち止まっていると痛みが軽快して再び歩くことができた。様子を見ていたが同様の症状が続くため受診した。

既往歴 : 45歳から高血圧症、脂質異常症および高尿酸血症。55歳から心房細動。57歳から逆流性食道炎。アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬、スタチン(HMG-CoA還元酵素阻害薬)、尿酸排泄促進薬、抗凝固薬およびプロトンポンプ阻害薬を処方されている。

生活歴 : 喫煙は30本/日を42年間。飲酒はビール500mL/日を42年間。営業職で外食が多い。

家族歴 : 父親が82歳で大動脈瘤破裂。母親が84歳で脳梗塞。

現症 : 意識は清明。身長172cm、体重82kg。体温36.2℃。脈拍92/分、整。血圧は右上腕で142/92mmHg。呼吸数16/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認めない。両頸部および両鎖骨上部に血管雑音を聴取しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。腸雑音を聴取する。腹部大動脈の拍動を触知しない。両鼠径部に血管雑音を聴取しない。四肢末梢に皮膚潰瘍を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(-)、糖(-)、ケトン体(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球537万、Hb17.4g/dL、Ht54%、白血球6,300、血小板22万、PT-INR2.1(基準0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白7.4g/dL、アルブミン3.8g/dL、総ビリルビン1.0mg/dL、直接ビリルビン0.3mg/dL、AST26U/L、ALT18U/L、LD182U/L(基準176~353)、ALP320U/L(基準115~359)、 γ -GTP142U/L(基準8~50)、CK120U/L(基準30~140)、尿素窒素22mg/dL、クレアチニン1.2mg/dL、尿酸7.2mg/dL、血糖108mg/dL、総コレステロール278mg/dL、トリグリセリド356mg/dL、HDLコレステロール48mg/dL、Na140mEq/L、K3.9mEq/L、Cl98mEq/L。

28 この患者の四肢の収縮期血圧と考えられるのはどれか。

	右上腕動脈	左上腕動脈	右後脛骨動脈	左後脛骨動脈 (mmHg)
a	142	140	142	144
b	140	142	112	64
c	142	140	76	136
d	140	112	110	64
e	142	110	136	138

29 抗血小板作用を有する血管拡張薬を追加する場合、服用中の薬剤で副作用が出現する可能性が高まるのはどれか。

- a 抗凝固薬
- b 尿酸排泄促進薬
- c プロトンポンプ阻害薬
- d スタチン〈HMG-CoA還元酵素阻害薬〉
- e アンジオテンシン変換酵素〈ACE〉阻害薬

次の文を読み、30、31の問いに答えよ。

61歳の男性。ふらつきを主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前から立ち上がる時にふらつきがあった。意識が薄らぐように感じるが消失することはない。悪心、胸痛、呼吸困難、動悸、頭痛、耳鳴り及び難聴はない。この数日ふらつきがひどくなっていることに加え、2日前から便が黒色になっているため、心配して受診した。

既往歴 : 42歳から脂質異常症。55歳時に心筋梗塞。スタチン(HMG-CoA還元酵素阻害薬)とアスピリンを処方されている。

生活歴 : 喫煙は55歳まで40本/日を35年間。飲酒歴はない。保険会社の支店長で仕事量が多いが人間関係は良好である。運動をする時間はないという。

家族歴 : 独身。父親は心筋梗塞で死亡。母親は健康である。妹が脂質異常症。

現症 : 意識は清明。身長175 cm、体重82 kg。体温36.8℃。仰臥位脈拍80/分、立位脈拍88/分、整。仰臥位血圧146/86 mmHg、立位血圧122/80 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂ 98 % (room air)。皮膚は正常。眼瞼結膜は貧血様だが、眼球結膜に黄染を認めない。口腔内は湿潤している。頸静脈の怒張を認めない。頸部血管雑音を聴取しない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。眼振を認めない。指鼻試験陰性、Romberg徴候陰性。四肢の筋力に異常を認めない。腱反射は正常。

30 この患者に有用でない検査はどれか。

- a 心電図
- b 直腸指診
- c 血液検査
- d 温度眼振検査
- e 上部消化管内視鏡検査

その後の経過 : 患者が検査に行くために診察室のドアを開けたところ、突然その場で倒れてしまった。駆け寄って患者の肩をたたいてみたが反応がないため、そばにいた看護師に応援を呼ぶことと隣の処置室の除細動器と救急カートとを持ってくることを依頼した。気道を確保し、呼吸と頸動脈の脈拍とを確認したが、呼吸はなく脈拍は触知できない。

31 次に行うべきなのはどれか。

- a アドレナリン筋注
- b 対光反射の確認
- c 胸骨圧迫
- d 気管挿管
- e 血管確保

